

公開シンポジウム 2007.2.5 in 東京

アジア海域社会の復興と地域環境資源 の持続的・多元的利用戦略



平成18年度科学研究費補助金基盤研究費(C) (企画調査) の
補助を受けています。

研究の目的

- 2004年12月におきたスマトラ島沖地震・津波で被災した東南アジアのアンダマン海・インド洋の沿岸漁村において、住民自らが地域資源・環境を多元的に活用して持続的な食料生産基盤を再建し、漁村社会が本来的にもっていた多面的機能をいかに発揮させるか。
- そのためには、いかなる政策的措置が必要かを検討すること。

研究の背景 ①

- スマトラ沖地震・津波で被災した沿岸地域の大部分は漁村。被災者の相当部分が漁民とその家族と言われる(FAO)。
- 水産業の受けた経済的損失は莫大であり、漁村住民の生活基盤はもとより、更新自律的資源である水産資源の持続的利用をはかってきた地域社会の諸制度も破壊された。
- 物理的な復興は相当進んでいるが、次のような問題に直面している国が多い。

研究の背景 ② 直面している問題は？

- ①「貧困の悪循環」と「資源枯渇の悪循環」が複雑に絡みあった現象が各地で見られる。
- ②地域資源・環境を持続的に利用する諸制度の再建が遅れている。特に, community-based resource management (CBRM)などの地方分権型・住民参加型の資源管理組織の再構築が難しい。
- ③復興援助が地域的に(漁業種類のにも)偏り, 漁獲努力量が急増して過剰漁獲の状態が見られる。援助手法の再検討が迫られている。

脆弱さと非持続性を抱えた不安定な社会として漁村が「再興」される危険性

研究の課題

地域資源・環境の持続的利用を可能にする社会システムの構築に向けて、実証的かつ政策志向的な調査研究を企画。

- ①中長期的に漁村住民の貧困化を防ぎ、資源・生態系に負荷をかけない水産業復興の手法の開発

「責任ある漁業」の実現

- ②地域資源の持続的利用を可能にする諸制度の整備と、地方分権型・住民参加型の資源管理組織の再構築にむけた政策を提案 「安定した漁村社会」の実現

- ③漁村地域にある資源・環境を多元的に活用し、生計復興戦略と持続的資源利用戦略とが両立する地域振興策の提案

「多面的機能」の発揮

研究の2つの方向性

- ①津波被災漁村の復興について活動が続けている人々や諸機関によびかけてシンポジウム開催や研究交流をはかる。
- ②東南アジア海域社会の復興過程に関する調査研究は長期間を要し、継続的なモニタリングを必要としている。

○社会科学적인視点に加え、生態や資源・環境などを含む総合領域にわたる研究への展望をもち、多分野の研究者との共同研究を模索する。

シンポジウム開催の目的

- 今年度の活動の成果を確認しながら、今後の漁村・沿岸地域の復興に関する調査テーマを明らかにする
- 復興支援にたずさわる政府関係者、援助機関の関係者、NGO、研究者などに幅広く参加を呼びかけて、研究成果をお知らせするとともに、今後の調査研究活動において、実践的なテーマを設定するために、助言と提案をお願いする。
- 経験と意見交流を可能にするネットワーク化をはかる。

これまでの調査の経過と シンポジウムの構成

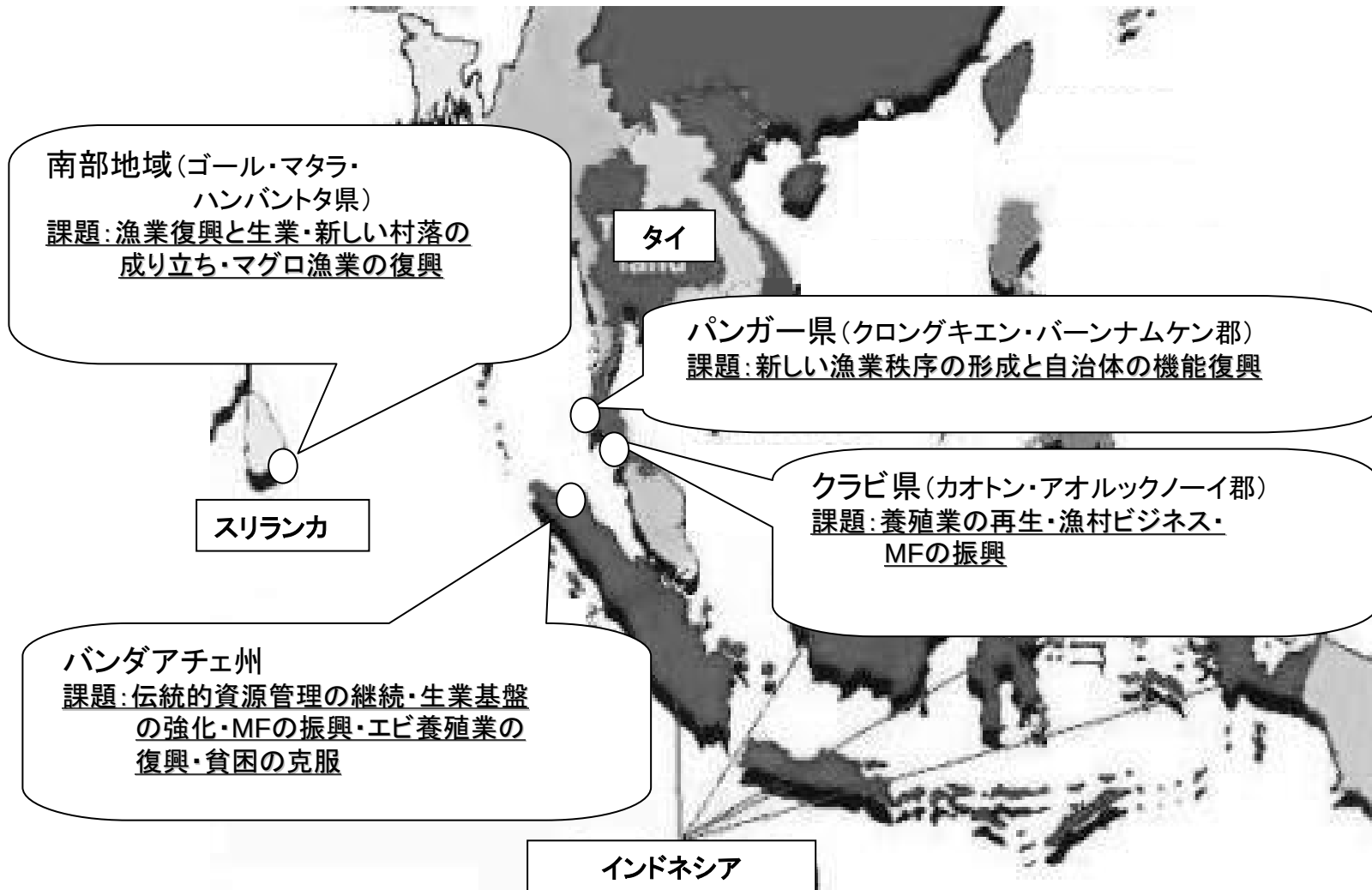


スリランカの漁村にて：地曳き網漁（この漁業の復活が生計の足しになった）

調査研究のポイント(この1年)

- 1 持続的な資源利用について
 - 1) 津波以前にあった資源利用に関わるルール及び組織
 - 2) 漁民・養殖業者の漁業投資, 資源に与えるインパクト
- 2 漁村復興戦略のあり方をめぐって
 - 1) 生計手段の確保と自立化戦略
 - 2) 破壊された漁村再興と住民参加の実現
- 3 復興行政・水産行政と地方自治体
 - 1) 地方自治体の崩壊と復興行政
 - 2) Community-based Rehabilitationの可能性

図 調査対象国及び地域と研究課題



3か国でのケース・スタディをもとに

1) 第1セッション: タイ

2004年4月から沿岸域資源管理の分野でパンガー県, クラビ県で定点観測を開始。津波以前の状況と以後の比較が可能(復興状況がよくわかる)。マイクロファイナンスの効果と生計戦略の連携のあり方を検討。

2) 第2セッション: スリランカ

沿岸域社会の被害状況を三つの郡を事例に検討。輸出志向型水産業の動向, 漁村再配置, ゾーニング, 地方自治体の能力向上などを検討。

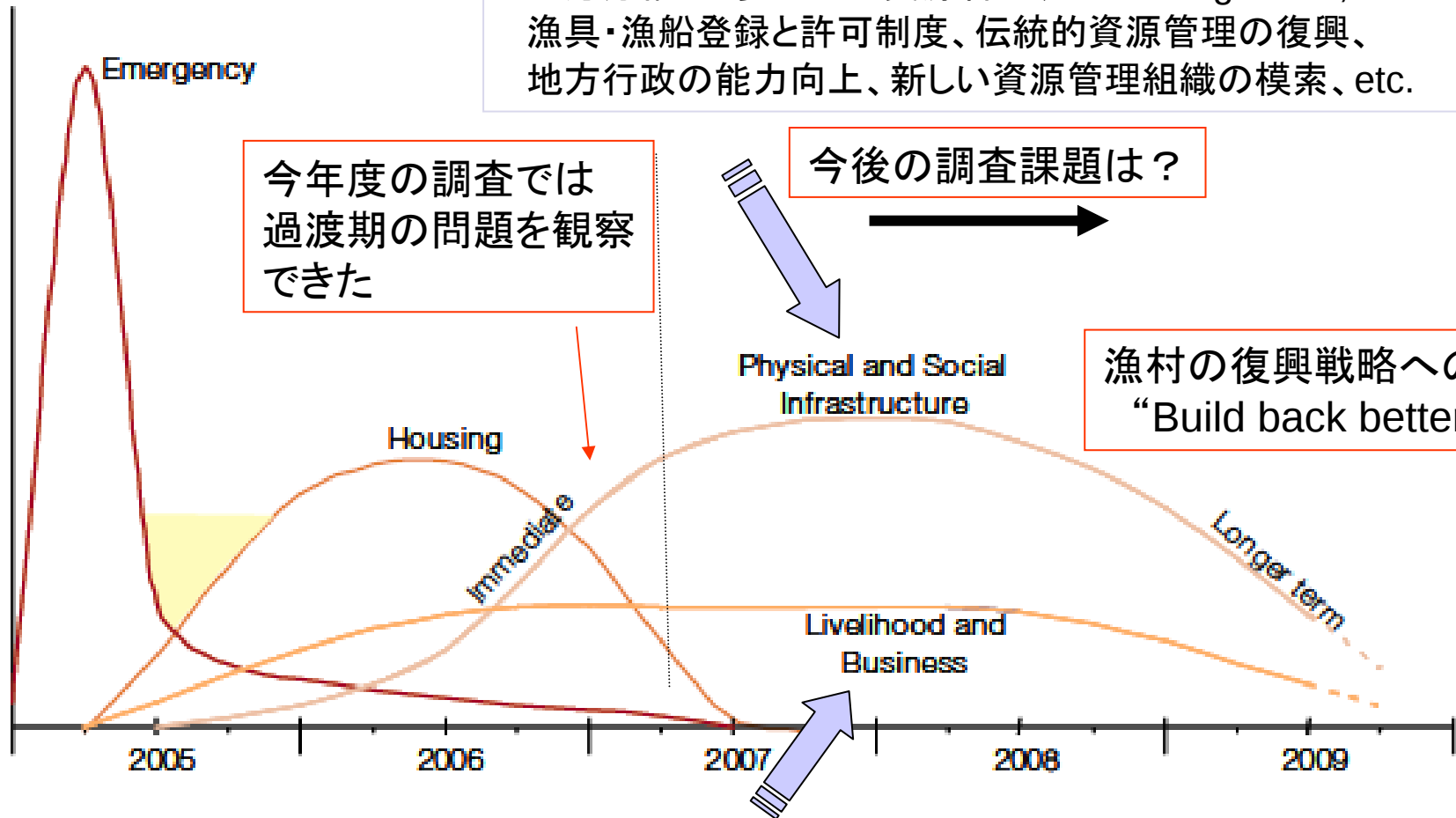
3) 第3セッション: インドネシア

バンダアチェを事例に復興事業の困難さと今後の課題を検討。
Community-based rehabilitation (CBR) の成果と限界を視野に入れる。

自由討論: 各セッションで国別の状況を確認。その上で, 共通課題をみつけて討論。わが国の今後の復興支援のあり方について意見交換も。

図 被災漁村の復興：生計基盤の強化と社会資本の再生プロセス

Level of Activity



漁村資源の持続的利用に関する調査

地方分権型・参加型の資源管理、Co-management、
漁具・漁船登録と許可制度、伝統的資源管理の復興、
地方行政の能力向上、新しい資源管理組織の模索、etc.

生計基盤の強化に関する調査

水産加工、ツーリズム、コミュニティー・ビジネス、マイ
クロ・ファイナンス、組合、共同マーケティング、etc.

ありがとうございました。



タイのプーケット島